

僕らの「お互いに好きなことをやりましょう」というスタンスは

今も変わらない(洋一郎様)

ここに入居してから仲良くなったかも(郁子様)

佐倉(ゆうゆうの里) 岡田 洋一郎様(82歳)・郁子様(81歳)

令和4年10月 二人入居

憧れの教師になり、同じ学園
で会いました

洋一郎様 僕の場合はおふくろが小学校の教師をしていたので、いつか幼稚園から大学のどこかで教師をしたいと常に思っていました。**郁子様** 私も高校時代には教員になりたいという気持ちが強かったですね。たまたま英語科に行き英語の教師になりました。

洋一郎様 僕は社会科の教師をしていました。同じ学園にいて、彼

女の方は生徒から親しまれ、授業が非常に面白い先生だと知りました。気になるものの廊下ですれ違っても知らん顔してました(笑)。

郁子様 同じ職場なので、できるだけ個人的に接しないようにしていましたね。

洋一郎様 そもそも僕は親戚が経営する学校に誘われて就職しました。当時は商業科のある女子校で就職するには非常に良い学校でした。しかし後に、時代の趨勢と共に進学校に切り替えていくことになり、そういう学校経営にもずっと携わることに。これって難しいんです。教師として生徒の成長を見るのは楽しみですが、魅力ある学校にして、志願者を増やし経営を軌道に乗せる仕事もやりがいがありました。

お互いが好きなことをやれる
共同生活者です

洋一郎様 子供がおらず二人だけの家庭です。うちには女性が炊事洗濯を担当するとかいう決まりは

ないです。汚いと思った人が掃除をする、洗濯物が溜まればやる人がやる。二人とも一日中勤めて夜帰ってくるのですから、自ずと私も料理ができるようになりました。

郁子様 主人と言うより共同生活者と下宿しているみたいです。お互いにやりたいことをやって協力し合っています。

洋一郎様 ある時、彼女(郁子様)が30歳になってアメリカに留学したいと言うので「どうぞ」って言うって送り出したら、周りの方から「良くお許しになりましたね」と言われてびっくりしました。僕らの「お互いに好きなことをやりましょう」というスタンスは今も変わらないかな。彼女のこの留学を機に海外の人たちとの異文化交流が始まりましたが、これまで私も一緒に楽しんできました。昨年、彼女が留学していた大学に招待されて、私も同行したのですが、彼女の留学先での体験や、何十年経っても大事にしている同級生や



こうして海外のご縁も大切になってきました
(右端：洋一郎様、左隣：郁子様)。

教師との繋がりを肌で感じる
ことができました。

社会学者の鶴見和子さんのエッセイで知った(ゆうゆうの里)

洋一郎様 子供がいないので「老後を考えなきゃいけない」プレッシャーを常に感じていました。

郁子様 それで(ゆうゆうの里)というのは新聞で目にしていました。社会学者の鶴見和子さんが寄せたエッセイの最後には、いつも「宇治ゆうゆうの里にて」とありました。

洋一郎様 ホーム選びを専門にしている友人に(ゆうゆうの里)の名前を出して相談すると、「もうそれ以上はないよ。老舗で信用度が高い」と太鼓判。宇治に行き一泊の体験入居をすると、もう内心



はへゆうゆうの里」に決まりです。次の課題は予算とも相談し、7カ所のどこにするか決めることです。決め手は、これまでの生活圏であった都内に佐倉が一番近いこと。新宿まで成田エクスプレスで一時間、京成の上野も便利です。

入居前には、終わらせなければいけないと思った生活が今も続いています

郁子様 私は新宿の英会話学校で50年、今でも教えています。入居

してから、これまでの生活が続けられるとわかりました。仕事だけでなく、友人にも会いに行けるし、美術館にも、体力に自信があれば海外にもいけます。散歩も楽しいわね。

洋一郎様 二人の散歩コースにある草、花を楽しんで、近くの畑の奥さんと色々話したりスイカを貰ったりね。

郁子様 親しくなった入居者の方たちのコンサートとか、展示会には必ず行くようになりました

ね。その方たちをほんと尊敬します。こんな風に生きられたらと憧れます。私は、里内では合唱と水彩のサークル活動を楽しんでいます。外の合唱団にも所属し「メサイヤ」の舞台を目指して練習に励んでいます。それに、友達との長電話、LINEのやり取り、外国からのメールも楽しいわね。やりかけの翻訳もやりたい。

洋一郎様 僕はエクササイズをやってゴルフが上手になりたい。入居者や近くに住む兄貴に誘われて、

ゴルフは月に二回以上行きます。

郁子様 エクササイズのクラスがたくさんあるのがいいですね。ウエイトマシンも一度使ってみました。何よりトレーナーが付いてくれるのが良いですよ。

洋一郎様 これからやりたいことは、僕は図書室の本を全部読みたい。体力が続く限りゴルフをやりたい。

郁子様 そうね。今やっていることを続けることね。私はできるだけ多くの人と話をしたい。